

令和3年度 日之影町立日之影中学校 学校評価

- 「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。  
 4:期待以上、 3:期待どおり、 2:やや期待を下回る、 1:改善が必要  
 ○「評価者」…「第一次」:学校による自己評価、「第二次」:保護者評価、「第三次」:学校運営協議会委員評価

評価項目	達成目標と方策	第一次評価者所見	評価		
			第一次	第二次	第三次
学力向上	学力向上の基盤となる、子どもたちの「学びに向かう力」や「進路実現への意欲」を向上させるような教育を推進する。	地域の方との対話や講話など地域と協働するキャリア教育を推進し、将来の生き方を考えさせながら学びに向かう力を高める取組を行った。その結果、生徒評価は3.6と高かった。一定の成果はあったと考える。次年度以降も、実態に応じた内容へと拡充していく必要がある。	4	3	4
	生徒一人一人の個に応じたきめ細かい指導・支援に努め、基礎的な学力の定着を図る。	学習支援員を配置した授業、2人体制で行う授業、不登校生徒へオンライン授業など個に応じた指導を行った。その結果、生徒評価は3.6と高かったが、保護者評価は2.9と低く課題が残った。この結果を真摯に受け止め次年度に向けて改善していきたい。	4	3	4
	生徒の思考力や表現力を高めるための指導方法の工夫・改善に努める。	全職員で「思考ツール」を活用した授業研究に取り組んだ。5月に行なわれた全国学習状況調査(3年)で、活用力が全国平均を上回るなど、成果が表れたと考える。生徒評価は3.6であった。今後も、更なる工夫と拡充に努める必要がある。	4	3	3
	読解力向上を目指した読書活動やICTを効果的に活用した学習を推進する。	ICTを効果的に活用した学習指導について、本年度、最も力を入れて取り組んだ。研修や研究授業を繰り返し、ようやく効果的にICTを活用できるようになってきた。生徒評価も3.8と一番高い評価であった。今後も、継続して取組を工夫していく必要がある。	4	3	4
生徒指導・心の教育	道徳教育や人権教育の充実にも努め、ふるさとを大切に、他人への思いやりにあふれた心を育む。	情報モラルの観点から人権を考える授業を定期的に行ったことで、人権意識は高まった。地域と協働する学習に取り組んだことで、郷土への愛着を深めた生徒が増えた。生徒評価は3.7であった。今後も取組を継続していきたい。	4	3	3
	生徒一人一人に寄り添った支援や声かけ、教育相談などに努めながら、生徒の自尊感情を高める。	生徒一人一人のよさを全職員で共有するために、生徒理解の時間を毎週設けた。情報を共有したことにより、生徒一人一人に応じた声かけが多くなるようになった。生徒評価は3.5であったが、保護者評価は2.9と低く課題が残った。この結果を真摯に受け止め次年度に改善したい。	3	3	4
	各行事や学習活動における生徒の活躍の場や活動の支援充実により、生徒が何事にも前向きに取り組む困難を乗り越えようとする態度を育む。	体育大会や文化祭などの学校行事や近未来会議などの総合的な学習の時間の発表の場で、主体的に活動する場を意図的に与えたことで、生徒たちは生き生きと表現することができるようになった。生徒評価は3.6であった。今後も取組を継続していきたい。	4	3	3
体力向上・安全指導	授業や体育的行事、部活動などの充実にも努め、子どもたちの心身の健康や体力を向上させる。	体育大会、水泳の授業、持久走の授業を通して体を鍛えることができた。また、部活動においても県大会に多数出場するなど練習の成果が表れた。生徒評価は3.7であった。今後も取組を継続していきたい。	4	3	4
	校内指導の充実の他、保健関係の通信や連絡によって家庭との連携を強め、健康安全や食育への意識を高める。	保健指導については、外部講師を招くなど多くの活動に取り組んだ。特に、12月の弁当の日については、保護者と連携した取組を行うことができ、食育への関心を高めることにつながった。生徒評価は3.7であった。今後も取組を継続していきたい。	4	3	4
家庭・地域との連携	地域との協働によるキャリア教育を充実させ、子どもたちに郷土愛や将来における自己実現への意欲を高める。	ひのかげ近未来会議や職場学習、校内ハローワーク、ひなた場など、地域との協働によるキャリア教育を計画的に実施できた。生徒評価は3.6であった。今後も取組を継続していきたい。	4	3	4
	学校だよりやホームページ等を活用した学校教育の情報発信に努め、学校の教育に対する地域やPTAの理解を促進する。	学校だよりやホームページの内容拡充、学級通信等による情報発信に努めた。生徒評価は3.6であった。今後も、保護者や地域への情報発信に努めていきたい。	4	3	3